

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 9月26日更新

事務事業名		基幹統計調査実施事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	政策部	課長名	中村 誓丞
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	企画課	担当者名	宮本 拓摩
	基本事業	84	広聴・広報機能の充実			所属班	政策企画班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款 2	項 5	目 2	事業連番 11450	法令根拠	統計法 各種調査規則	成果優先度評価結果 : ⑫ コスト削減優先度評価結果 : ⑥
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input checked="" type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 22 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	統計法に基づき、市民や事業所等を調査対象として地域別・業種別などの活動状況などを把握し、行政諸施策に活用する。国勢調査や家計調査など現在56調査が基幹統計調査となっている。これまでは毎年実施される統計調査毎に、事務事業として実施していたが、平成22年度より1本にまとめ(対象・意図が同じであるため)で実施している。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	調査区設定・市町村説明会への出席・指導員および調査員の推薦・指導員および調査員事務説明会の開催・調査票の整理・審査・県への提出・事後報告会への出席など
【主な予算費目】	報酬・職員手当・報償費・需用費・役務費
【意見や要望】	調査主体が各省庁に分かれているため、似たような項目を複数の調査において聞かれるなどの問題点が指摘されており、「記入者負担の軽減からこれを一本化するべし」などの意見がある。また、市役所で把握していることをなぜ回答しなければいけないのか、と調査に非協力的な市民も増えている。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)	① 手段(主な活動) 23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
・学校基本調査(5月)・国勢調査(10月)・工業統計調査(12月) 農林業センサス審査業務、経済センサス活動調査調査区設定業務	学校基本調査(5月) 経済センサス活動調査(2月)	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 当該年度に実施される調査数	調査	H22年度に実施した国勢調査の完了による減。H23年度は学校基本調査および経済センサス活動調査を実施予定。
→ イ 翌年度実施調査の準備業務を行った調査数	調査	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 基幹統計調査	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
	→ ア 当該年度に実施される調査数	調査
	→ イ 翌年度実施調査の準備業務を行った調査数	調査
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 一般世帯や事業所の活動状況を明らかにする	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
	→ ア 当該年度に実施された調査数	調査
	→ イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 調査が問題なく実施されたか把握するため		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込
① 活動指標	ア 調査		0	0	3	3	2	3	3
	イ 調査		0	0	1	1	1	1	1
② 対象指標	ア 調査		0	0	3	3	2	3	3
	イ 調査		0	0	1	0	1	1	1
③ 成果指標	ア 調査		0	0	3	3	2	3	3
	イ								
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円		17,642	17,652	1,467	1,500	1,500
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
	一般財源	千円			9	2	48		
人件費	(A) 事業費計	千円	0	0	17,651	17,654	1,515	1,500	1,500
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	16,001	15,754	1,388	0	0
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	2,752	1,475	398	0	0
	正規職員従事人数	人	0	0	0	7	0	6	6
延べ業務時間	時間	0	0	0	1,730	0	1,500	1,500	
(B) 人件費計	千円	0	0	0	7,127	0	6,180	6,180	
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	17,651	24,781	1,515	7,680	7,680	

総トータルコスト
全体計画
～
年度

(期間限定複数年度のみ記載)

事務事業名	基幹統計調査実施事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (SEE) ※原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 各種調査が問題なく実施され、県へ調査票の提出ができた。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
目標達成度評価	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 基幹統計調査については、国が実施主体となり、時期、やり方等全て決められているため。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 国が実施主体であり、やり方が定められているなかで可能な限り効果的効率的な手段をとっている	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他の方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の調査があるが、基幹統計調査として国が定めているため、市において統廃合や連携はできない。	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 県から交付された必要経費の範囲で行っている	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の人員で可能な限り効率的な業務を行っている	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 統計法に基づく基幹統計調査であり公平・公正である	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 役割分担は適さない	<input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

国の基幹統計調査のため廃止・休止はできない。効果的効率的に処理しており、削減・改善の余地はない。平成22年度は学校基本調査(5月)、国勢調査(10月)、工業統計調査(12月)、農林業センサス審査業務、経済センサス活動調査区設定業務を実施した。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 国の基幹統計調査のため廃止・休止はできない。効果的効率的に処理しており、削減・改善の余地はない。	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						